

	<p>【主な質疑】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 苫小牧でのCCS実証プロジェクト推進にあたり、何か問題はなかったか？ → 苫小牧でプロジェクト実施する前に誘致協議会を立ち上げ、その協議会にはいろんな団体が参加しており、地元漁協も参加していただいている。もともと苫小牧は王子製紙の街なので、すんなりと受け入れていただいた。 ・ INPEXが、ブルー水素とともにCCUSについて取り組んでいることについては？ → 苫小牧CCS実証試験センターにも各企業が視察に来られています、それは投資目的で、保険会社、証券、銀行等が興味を示しているとのこと。 ・ CCS実証プロジェクト推進の今後のスケジュールについては？ → エネルギー庁では、長期ロードマップで課題を表にして潰していっているのでそれに応じて進めていく。 <p>【視察箇所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 苫小牧CCS実証試験センター内ある、CCS実証試験設備の視察をおこなった。
<p>所 感 等</p>	<p>【三宮 直人】</p> <p>CCS (CCUS) の取り組みは、苫小牧市にとっても取り組みを情報発信し国内外から視察者を受け入れることで自治体の価値向上に繋がり相応の経済効果もあったと思われる。</p> <p>しかし世界では米国、北欧、中国、中東を中心にCCS施設の商用化が進んでいる。原油や天然ガスの採取において発生するCo2削減と採取の効率を高める必要性から進んできたようだ。また、Co2の発生源で回収（利用）するため効率のよいCCSの運営となっている。日本においては、今回視察した苫小牧CCSをはじめ発電所関係では福井県の舞鶴発電所（石炭・個体吸収）、福岡県の三川発電所（バイオマス・地中貯蔵）で行っているが、どれも実証試験の段階で商用化に至っていない。</p> <p>世界的にみれば日本のCCSの取り組みは遅れている。米国では石炭、石油で新設する発電所ではCCSが義務化されたと聞く。日本でも化石燃料を使った発電所でのCCS (CCUS) の義務化が必要ではないか。</p> <p>【重野 正毅】</p> <p>CCSやCCUSについては柏崎市でもその可能性を研究しようとしている企業がある。それを含め、ここでの視察は柏崎市民へも関係深いものだと感じた。個人的に、砂岩層の中にCO2を貯留するとか、そのための超臨界などやや専門的なことに関心が向いたので、こういうところに食いつく市民もきつといると思う。</p> <p>専門的な言葉を使って市民を煙に巻くような説明をせず、これらの技術の必要性やその活用が地元の活性化にもつながることを丁寧に伝えていくことも私たちの務めの一つだと思った。</p>

